

研究公開文書

2024年 9月 20日

研 究 名	新生児行動評価スケール用いたりハビリテーション指導が父母に与える影響
研 究 の 概 要	NICU に入院する新生児は、重症度に関わらず出生直後から家族と分離され、両親は愛着形成や親役割獲得の遅延・障害を起こしやすく、また小さく産まれたことに関連した様々な不安や心配を抱えていることが報告されている。新生児行動評価スケール（以下 NBAS）は、新生児の外界との相互作用の過程から新生児の神経行動を評価する方法であり、新生児の発達支援において、児の行動を促すために個別的ケアプランや親への介入プランを立案する上で有益な評価方法と言われている。今回の目的は、新生児集中治療室（以下 NICU）にて理学療法実施した中等度早産児および後期早産児（以下 MLPT）の NBAS を退院時リハビリテーション指導（以下退院リハ指導）に活用し父母へ影響を検討した。
研 究 対 象	包含基準：当院 NICU に入院された中等度早産（在胎 32 週以上、34 週未満で出生）、後期早産（在胎 34 週以上、37 週未満で出生）の MLPT 児 除外基準：在胎32週未満の出生児、養育者のいない MLPT 児
研 究 責 任 者	小田原市立病院 リハビリテーション室 佐藤隆一
研 究 実 施 期 間	研究許可日～令和7年11月30日
連 絡 先	小田原市久野 4 6 番地 小田原市立病院 0465-34-3175